

中学校第3回入試を終えて

1月18日(土)、中学校の第3回入学試験を無事終了することができました。今年度は最終的に昨年度を上回る受験生をお迎えすることができました。ありがとうございました。

大変寒い中、受験生であるご子息のため大勢の保護者の皆様がお見えになりました。毎年のこととは言いながらも、こうした姿に保護者の皆様のご子息への愛情と教育への熱意を目の当たりにし、教職員一同身の引き締まるものを感じました。また、早朝より受験生の応援のために駆けつけて下さった塾の先生方には、本当に頭の下がる思いをいたしました。大変多くの受験生をお迎えできたことは、これからの城北埼玉へのご期待と受け止め、そのご期待に応えることができる学校へ更なる成長を遂げたいと感じております。

さて、第3回入学試験では厳正な合否判定の結果122名の実受験者のうち、87名の合格者を決定し、このうち15名を特待生合格(選抜クラス)、選抜合格26名(選抜クラス)とさせて頂きました。入試結果に関する詳細は本校ホームページ上で掲載させて頂いております。加えて各教科主任からの講評も記載しております。受験生の皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

本校の入試は今回で幕となりましたが、受験生の皆さんの未来にはまだまだ多くの可能性が秘められていると存じます。今回の結果を糧に、大きな飛躍を遂げられることを、ただただお祈り申し上げます。

能力は無限、時間は有限
学力は試験当日まで伸びる!
粘れ! 輝け! 受験生!!

城北埼玉中学・高等学校

校長

森泉秀雄

国語 講評

まず始めに、問題に誤りがあったことをお詫びします。すべての受験生の皆さんに不利益がないよう採点いたしました。申し訳ありませんでした。

次に採点してみたの感想です。一の長文読解に関しては、全体としてまずまず出来ていたと思います。けれども三の四字熟語、六の二字熟語などのことばの知識についての出題に関しては、出来不出来に差がついたように関します。

暗記ということではなく、普段からことばに関心を持つようにしてください。

これで城北埼玉中学校の本年度の入学試験が終わりました。受験生の皆さん本当にお疲れ様でした。

令和2年4月。満開の桜の下で皆さんと笑顔でお会いできることを心から楽しみにしています。

そして最後に、ご子息の受験をここまで支えてきてくださった保護者の皆様、そして、冷たい雪の中、早朝からお越しいただいて受験生を笑顔で激励してくださった塾の先生方、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

国語科主任 高橋浩一郎

算数 講評

- 1 基本的な計算と図形の見方を問う問題でした。よくできていたと思います。
- 2 (2)は3色すべてを使わなければならないことに注意が必要です。また、左上のブロックから塗り始めるとする場合は、左下と右上のブロックの色が同じ場合と、異なる場合で場合が分れます。
- 3 (2)は移動する扇形の中心が 90° の場合と 180° の場合の2つの組み合わせがあります。 90° の場合は3か所あることが注意です。
- 4 (1)(2)は良くできていました。(3)については前回に類似した問題の出題があったのでそれを復習してきてくれていると解きやすかったでしょう。
- 5 水位が2cm上がるごとに水面の面積が変化することに注意が必要です。グラフの読み取りも良くできていたと思います。

本校の入試はこれで終わりますが、受験生の皆さんにとってはこれからが正念場だと思います。皆さんの健闘をお祈りします。まだまだ寒い日が続きます。健康に気を付けて最後の最後まで頑張ってください。また、4月に再会できた時には喜んで歓迎いたします。

数学科主任 池上雅史

社会 講評

〈 地理分野 〉

作問で意図したことは、

- ・世界の国々について、提示した地図と問題文にあるヒントを手がかりに考えさせる
- ・世間で話題となったことがらに、日頃から興味を持っているかどうか
- ・単純なクイズのようにしない、思考しなければ正解できない

ということでした。問1は誰もが知っている国旗のデザインからその国の首都名を答えさせたり、問2の「東京」は時事問題であったり、問4では「世界最大の国はロシア」「世界最多の人口は中国」という常識を求めたりと、教科書の記載事項を覚えるだけではなく、区別・関連づけ・情報の整理という経験を重ねていくことで対応できる問題でした。また、問3は文字情報を見て頭の中で世界地図を描く問題、問5では本校第2回と同様の出題（関東地方の地図を思い描く）でした。単なる暗記ではなく、用語と資料を連動させていく学習を心がけてください。

〈 歴史分野 〉

「平成」の年号が終わったことで、日本郵便・郵便局HPを参照して特殊切手の図案、そして世界遺産を関連させた作問をしました。

前半はかつての本校入試問題で出題されたり、地理・公民分野でも学んでいることを出題しました。後半は歴史分野としては解答しやすい、標準的な問題でした。受験生諸君はしっかりと対策をしてきたようで、正答率はとても高く出たように感じています。

〈 公民分野 〉

国連総会でのグテーレス事務総長の演説から作問しました。問5に関しては、香港でのデモやイランと米国の対立が最近のニュースとして印象深いと思いますが、2018年時点での演説であることと本文の文脈からシリアを選べるはずです。

ロヒンギャの説明文選択（問6）と、SDGsの日本語訳（問9）はきちんと勉強していた受験生が多かったと感じました。なお、問7の正解「IAEA」は国連の専門機関ではないため、「国連機関」という呼び方をしました。日頃からニュースに目を向けることと、問題文をきちんと読む習慣も身につけましょう。

社会科主任 高橋寿拓

理科 講評

1 「消費電力」という言葉がキーワードになっている問題でした。電気の分野は、電気そのものがイメージしにくいこともあり、苦手と感じている人が多いのかもしれませんが。「消費電力」は、電流と電圧の値をかけ合わせたものです。電流と電圧がどのようなものかを理解している必要があります。また電流と電圧は、つなぎ方によって変わってくるので、イメージしやすいように自分で図を書いてみるというのも有効な方法でした。数字の計算問題という感覚で解こうとすると、基本的な考え方が思い浮かばない可能性があります。イメージすることを大切にしてください。そしてそれを実際のものに近づけて欲しいと思います。

2 水溶液の性質に関する問題でした。全体的によくできていました。

問4の選択肢はそれぞれ、アが酸素、イが窒素、ウが水素、エが二酸化炭素の性質についての説明です。金属と塩酸の反応なので、発生する気体は水素ですが、これらの気体の製法・性質・捕集方法は非常によく出題されるので、確認しておいてください。

問5、問6は酸性とアルカリ性の溶液の量的な関係を考える問題でした。中和の反応と、フェノールフタレイン液やBTB液の酸性・中性・アルカリ性での色の変化もよく出題される分野なので、しっかりと復習してください。

3 人体に関する問題でした。消化器官については、中学校に入学してからも学ぶ大切な分野です。各器官の役割を、食物の通る順番に把握している受験生は高得点を取ることができました。実験に関する問題では、だ液は人の体ではたらくため、体温に近い温度でよくはたらくことがポイントです。数値や役割を覚えるだけでなく、「なぜそうなっているのか」を疑問に思うことが、理科を学ぶ上で大切です。

4 火山に関する問題でした。火山に関しては、形状で大きく3つに分けられます。これはマグマのねばりけによるもので、ねばりけはマグマを構成している鉱物の種類によって決まります。大きい現象でも、小さな要因が決定づけています。噴火は怖いと漠然と思うだけでなく、何が原因で噴火が起こるのか、噴火することで何が火山から出てくるのか知ることが必要です。また、日本に分布している火山の数は多く、火山の影響は大きいです。いつ、どこで、どのような危険が起こりうるのか、なぜ?という素朴な疑問を持ち、現象の大きさに関係なく何がどうつながっていくのかを理解することは大切です。